

P-D-7

ベニクスノキタケの肝障害抑制作用

Suppression of liver injury by *Antrodia camphorata*

○西村 太輔¹⁾, 許 善花¹⁾, 多田 祐也¹⁾, 武島 嗣英¹⁾, 杉 正人¹⁾
吉田 文人¹⁾, 宇住 晃治¹⁾, 松永 政司¹⁾, 高木 繁²⁾

1) NPO法人 遺伝子栄養学研究所, 2) (有) エイル免疫研究所

Effects of *Antrodia camphorata* on liver injury were studied both in rats and human. Oral administration of *A. camphorata* in rats could successfully prevent the ethanol induced liver injury. Clinical studies showed decreasing in serum GOT and GPT levels in patients such as HCV induced chronic hepatitis, cirrhosis and non alcoholic steatohepatitis (NASH). Furthermore, non detective levels of HCV virus were found in patients treated with interferon (IFN) one week after oral administration of *A. camphorata*.

【目的】

ベニクスノキタケは古くから民間伝承薬として珍重されてきた。本研究ではベニクスノキタケ菌糸体 AC-7 (以下 AC-7 という) をラットに摂取し、肝障害が抑制される事を明らかにすることを目的とした。また、ヒトによる臨床試験も、慢性肝炎などの肝障害患者で肝機能改善効果を明らかにすることを目的として実施した。

【方法】

- ① 動物実験： 対照群には 30%エタノールのみ、被験物質投与群には 30%エタノール水溶液+AC-7 を 5%含有させた試料を経口投与 (1 回/1 日) した。被験物質はアルコール投与の 1 時間前に経口投与。Day30 でラットから採血をおこない、血清中 GOT, GPT 値を測定すると共に、肝臓組織片を染色し、肝組織の障害度合いを観察した。
- ② 臨床試験： C型慢性肝炎、肝硬変、非アルコール性脂肪性肝炎などの患者を対象に AC-7 を 1 日 3 g 服用してもらった。服用開始前、開始後 1,2,3, 6 ヶ月に採血し GOT, GPT, γ GTP 等の肝機能マーカーを測定した。また C型慢性肝炎、肝硬変患者については HCV の定量も行った。

【結果】

ラットを用いた動物実験では被験物質投与群は対照群に比べアルコールによる肝障害が軽減していた。ヒトにおける試験では非アルコール性脂肪性肝炎や C型慢性肝炎、肝硬変患者で血清中 GOT, GPT 値などの肝機能マーカーの低下が認められた。さらに、肝機能マーカーが低下した患者について AC-7 服用 1 週間後からインターフェロン治療を行ったところ、C型肝炎ウイルスが検出限界以下になった例が認められた。

【結論】

AC-7 の摂取は動物実験及びヒトでの試験結果から肝障害を抑制する事が期待出来る。今後ヒトでは C型肝炎のインターフェロン治療の前や治療後の再発予防に補助的に応用することが期待される。